

福岡県のバイオ産業創出 ～久留米リサーチ・パークの紹介～

本多 進

株式会社久留米リサーチ・パークは、福岡県や久留米市をはじめとする地方公共団体および地域企業から出資を受けて、1987年(昭和62年)に設立された第三セクターです。弊社は、地域のベンチャー企業や研究開発企業が入居する福岡バイオインキュベーションセンターおよび福岡バイオファクトリーを有し、また試験研究設備を備えたオープン・ラボを運営しています。久留米大学医学部、九州大学などのアカデミアや福岡県工業技術センター、福岡県農林業総合試験場、化学物質評価研究機構久留米事業所などの研究機関と日常的に連携しながら、地域企業のものづくり支援や研究開発支援を実施しています。本稿ではバイオ分野の支援活動に焦点をあてて弊社の事業を紹介します。

久留米市を中心としてバイオ産業の拠点化を目指す福岡バイオバレープロジェクトが2001年にスタートしました。本プロジェクトは、バイオテクノロジーを核とした新たな産業やバイオベンチャー企業の創出および企業や研究機関が集積したバイオクラスターの形成を目指しています。弊社は、本プロジェクトの推進組織である福岡県バイオ産業拠点推進会議の事務局を担当し、福岡県および久留米市の支援のもと種々の事業を行い、新製品・新技術創出研究開発支援事業として可能性試験(1年間)、育成支援型(特定地域枠, 1年間)、育成支援型(2

年間)、実用化支援型(2年間)など研究段階に応じた事業を実施しています。

2015年4月に新しく機能性表示食品制度が始まり、科学的根拠に基づいた機能性を事業者の責任で表示できるようになりました。弊社は、本分野の専門家と連携して、機能性表示食品の開発から予備的な臨床試験、届出、マーケティングまで、地域企業を支援する体制を整えています。

講演会や実習を行う「バイオ研究・ビジネス最前線」という取り組みでは、地域の企業に最新の情報を提供しています。最近の一例として、九州大学生体防御医学研究所の馬場健史教授による講演会「メタボロミクスによるマルチマーカープロファイリングの可能性」を弊社で開催し、好評を博しました。

久留米市は人口30万人、福岡市、北九州市について県内第三位の都市です。県南の筑後平野の中心にあって、市の中央を筑後川が流れ、歴史的にも福岡県の産業および文化の中核拠点として発展しました。明治以降、ゴム産業の伝統があり、ブリヂストンのような世界的企業の発祥の地でもあります。東芝の前身、芝浦製作所の創業者も当地出身です。久留米市はまた、県内有数の農業地域であり、農産物の品質評価に前述の講演会のメタボローム解析の利用が期待されることです。

野村総合研究所の2017年「成長可能性都市ランキング」調査で、久留米市は国内100都市のうち総合で第9位、成長ポテンシャルで第5位に入りました。このような成長可能性の高い地域にあって、弊社は、最先端のメタボローム解析などの分野を取り入れながら、地域の発展に貢献するとともに、地理的に近いアジアの国々の研究機関や企業との連携、さらには世界への新技術の発信を目指します。

名称;	株式会社久留米リサーチ・パーク
代表者;	代表取締役社長 石丸茂夫
設立;	1987年(昭和62年)12月13日
資本金;	15億7,785万円
	公共セクター 59.8%
	久留米市(29.6%), 福岡県(29.5%), 広川町
	鳥栖市, みやき町, 基山町
	民間セクター 40.2% 105企業
従業員数;	25名
所在地;	〒839-0864 福岡県久留米市百年公園1番1号
URL;	http://www.krp.ktarn.or.jp/ (株式会社久留米リサーチ・パーク)
	https://www.fbv.fukuoka.jp/ (福岡バイオバレープロジェクト)

図1. 会社概要 (2018年3月31日現在)



図2. 九州大学馬場健史教授の講演会風景